

丸井グループ

宮米織物60年の軌跡

人絹と輸出羽二重の生産を中心に、昭和11年ごろ、北陸産地の織機台数はピークを迎えた。しかし、昭和14年の第2次世界大戦勃発ごろから、次第に原材料の入手が困難となりはじめる。昭和15年に生糸配給統制規則が施行され、材料不足にますます拍車がかかった。

同時に重要産業統制団体令による織機の強制供出で、絹人絹織物業は大打撃を受け、最盛期35万台あった織機台数が終戦時には13万台にまで減少していた。

1937・1945

昭和12年

昭和20年

生産のピークから材料不足へ

宮米織物の動き

12年

2月 鹿島町徳前に株式会社宮米機業場設立。能登上市、人絹織物を生産。資本金5万円

石川県の動き

12年

5月 小松市殿町に小松朝鮮移出織物工業組合が共同加工場を設立

7月 小松市上下水道開通

18年

10月 小松織物精練染工（現小松精練）設立

20年

6月 宇ノ気町出身の哲学者西田幾多郎死去。76歳。

日本と世界の動き

12年

7月 日中戦争勃発

14年

9月 第2次世界大戦勃発

15年

1月 生糸配給統制規則の施行

18年

1月 繊維等配給統制規則公布

20年

8月 広島、長崎に原爆が投下。

15日終戦

●昭和12～14年

ブーム：浪花節、木炭自動車、国民服、モンペ

流行語：抱き合わせ、新秩序、日の丸弁当

流行歌：人生の並木路、別れのブルース、上海の花売娘

●昭和15～16年

ブーム：名曲レコード鑑賞、八百屋店頭の行列、髪形「鉄カブト髷」

流行語：贅沢は敵だ、新体制、配給

流行歌：湖畔の宿、十三夜、夜のタンゴ



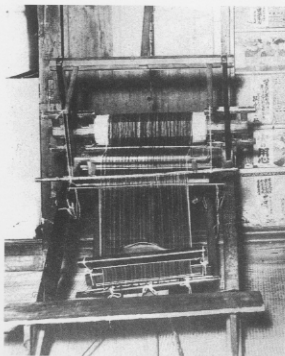
常務取締役 故 宮本次之助（昭12.2～昭28.8）



当時の織り工さん



初代社長 自宅前風景



当時の織機

●昭和17～18年

ブーム：ゲートル、決戦料理、買い出し、防空頭巾

流行語：欲しがりません勝つまでは、非国民、一億火の玉

流行歌：空の神兵、渥島の白梅、明日はお発ちか、勘太郎

月夜明

●昭和19～20年

ブーム：“戦局不利”の落書き、雑炊食堂、闇市、青空市場

流行語：神風、疎開、一億総ざんげ、たけのご生活

流行歌：同期の桜、予科練、リンゴの歌、お山の杉の子